

● 講演会・フィリピンの平和を考える

アントニオ・J・レデスマ大司教（カガヤン・デ・オロ大司教区）

「フィリピンの平和に向けた長く曲がりくねった道

― 紛争の根本的原因と和平再開の呼びかけ」



レデスマ大司教

日時 : 2020 年 2 月 11 日（火）午後 3 時～ 5 時（開場 2 時半）
参加費 : 無料、言語：英語（日本語通訳有り）
場所 : カトリック大阪大司教館 1 階 会議室（大阪市中央区玉造 2-24-22）
最寄り駅は JR・地下鉄玉造駅、JR・地下鉄森ノ宮駅よりいずれも徒歩 13 分から 15 分
主催 : 「共生対話の構築」プロジェクト（担当・松野明久、大阪大学）
後援 : カトリック大阪大司教区
問合せ先：松野 matsuno@osipp.osaka-u.ac.jp Tel: 090-3272-4383
申し込み：できればメールかイベントサイト（QR コード）でお申し込み下さい。

フィリピンで長く続く紛争。少数の大土地所有者による支配や構造的貧困を背景として、フィリピン共産党（CPP）とその武装組織である新人民軍（NPA）が革命と社会変革を掲げて闘争を行っているのです。共産党は「国民民主戦線（NDF）」という組織を作り、政府と和平交渉を行ってきました。ドゥテルテ大統領が就任して、和平が実現するとの期待が高まりました。しかし、それも 2018 年に中止が発表され、社会運動家、人権活動家などの逮捕・殺害や軍による掃討作戦が始まりました。和平の希望も消え、人々はまた不安な暮らしに戻されてしまいました。そんな中、フィリピン・エキュメニカル・ピース・プラットフォーム（PEPP）は、紛争の根本的原因となっている土地問題や貧困の解決を求めつつ、政府と NDF の交渉再開を求めています。PEPP の共同代表としてこの平和運動の先頭に立つアントニオ・レデスマ大司教から、紛争の根本的な原因、貧困に苦しむ現地の状況、紛争の被害、和平の展望について話を伺います。

アントニオ・J・レデスマ大司教

1943 年イロイロ市生まれ。イエズス会に入会。1963 年司祭叙階。1996 年イピル教区補佐司教に叙階。2006 年カガヤン・デ・オロ教区大司教に任命、着座。

フィリピン・エキュメニカル・ピース・プラットフォーム（PEPP）
ノルウェー・エキュメニカル・ピース・プラットフォーム（NEPP）
の支援を受けて設立された、宗派を越えて連携する平和運動です。ノルウェー政府はフィリピン政府と NDF の和平交渉をファシリテートしており、官民連携してフィリピンの紛争解決にあたっていると言えます。Facebook があります。

